

主要行等の平成 30 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 30 年 3 月期は、低金利環境の継続等により連結業務純益は前年同期に比べ 7.5%減少したものの、株式等関係損益が増加したことや、与信関係費用が大幅に改善したことなどにより、当期純利益は前年同期に比べ 6.6%の増加。

(単位：億円)

	28 年 3 月期	29 年 3 月期	30 年 3 月期	前期比
連結業務粗利益	108,941	105,278	102,995	▲ 2,282
資金利益	53,443	50,158	48,306	▲ 1,852
役務取引等利益	33,919	34,351	35,039	688
その他業務利益	9,675	8,762	8,064	▲ 698
うち債券等関係損益*	4,107	998	▲ 96	▲ 1,094
経費	▲ 65,924	▲ 68,253	▲ 68,901	▲ 648
連結業務純益	42,715	37,913	35,067	▲ 2,847
与信関係費用**	▲ 4,390	▲ 3,991	53	4,044
株式等関係損益	3,889	4,888	5,629	741
うち株式等償却*	▲ 764	▲ 292	▲ 186	106
親会社株主に帰属する 当期純利益	27,240	26,140	27,853	1,713

*債券等関係損益、株式等償却については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

(参考)	28 年 3 月末	29 年 3 月末	30 年 3 月末
貸出金（末残）***	295.3 兆円	299.9 兆円	296.9 兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は 29 年 3 月期に比べ減少、不良債権比率も低下。

(いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低)

	28 年 3 月期	29 年 3 月期	30 年 3 月期
不良債権額	3.1 兆円	2.9 兆円	2.2 兆円
不良債権比率	0.97%	0.87%	0.66%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1 比率、普通株式等 Tier1 比率は、29 年 3 月期に比べ上昇。

- 国内基準行の自己資本比率は、29 年 3 月期に比べ低下。

(国際統一基準行：4 グループ)

(国内基準行：3 グループ)

	29 年 3 月期	30 年 3 月期		29 年 3 月期	30 年 3 月期
総自己資本比率	16.29%	17.63%	自己資本比率	11.88%	11.26%
Tier1 比率	13.55%	15.12%			
普通株式等 Tier1 比率	11.73%	12.94%			

(注1) 記載金額・比率は、四捨五入して表示。

(注2) グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

(注3) 銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。